

この記事はKCJ会誌2005年9月号に掲載されたものです。



撮影 卵生目高研究所 田中氏

アピュオセミオン・アウストラーレ・オレンジ(改良品種)の飼育、繁殖について 5

初級魚である *Aphyosemion australe* アウストラーレ・オレンジは、永年、卵目を飼育されて来た方々には見向きもされないメダカだと思っていましたが、意外と需要があったのには、今でも信じられないような気持ちです。記事を書くよう言われまして、いったい何を書けばいいんだという戸惑いがありましたが、万年、初心者の域を脱し得ない私には、記事を書くにはちょうど良いメダカかもしれません。ベテラン諸氏には何の参考にもなりません、これから卵目を飼おうという人には、多少なりとも参考になれば・・・と思います。

アピュオセミオン・アウストラーレ・オレンジは、なかなか入手しにくい卵生メダカの中あって、一般の熱帯魚店でも時折販売されている初級魚で、比較的高温にも耐えるメダカです。オスの体色は名前の通りオレンジ色、メスは黄色で、水草水槽にも良く合います。私のところでは、75cmの水草水槽に(殖やした数により)10匹~20匹、おとなしいコイ科の魚とカラシン、コリドラス(2匹)などと混泳させていますが、他の魚には無関心で、混泳には全く問題はありません。(この水槽で殖やすことは出来ませんが・・・) この水槽では、卵目にとっては多少無茶

な水替えを遣っています。1週間(時には2週間)毎に約3分の1を水替え、それも蛇口から出たばかりの水道水で。温度を合わせて中和はしています。それでも滅多に落ちることはありません。ただし、それ以上の換水はしない方が無難なようです。

また、他のメダカの例にもれずオス同士は争いますが、改良品種のせい、それほど激しいものではなく、多少過密状態での複数飼育も全く問題ありません。繁殖については、他のアピュオセミアンのどの方法でも良く、一度繁殖できれば、長期に渡って維持できます。非年魚で2～3年は生きますので、年魚のように卵を確実にとらなくても焦る必要も無く、フヤシタイ時にフヤス！それが出来るメダカだと思っています。

繁殖方法はさまざまありますが、下記のそれでも行けるメダカです。

- ・水草をたくさん入れた中で自然繁殖
- ・モップで採卵
- ・ウィローモスで採卵
- ・ピートで採卵

数を多く取りたい時には、30cm水槽に1ペアとモップを入れて、1～2週間毎に採卵しています。プラケースに飼育水と共に入れておけば2週間程度で孵化します。稚魚のエサには湧かしたブラインと微少な粉餌で十分だと思います。

書き足りないノウハウは、まだまだたくさん有ると思いますが、他のアピュオセミアンに準じますので、疑問等がありましたら、会員の方どなたでも答えてくれますので聞いてみて下さい。

余談ですが、今、最も気にかけている卵目は *Rivulus xiphidius* リウールス クシピディウスで、20～30匹までは殖やそうと思っています。どうしてもオスが多く生まれますので、メスの確保が課題です。(稚魚を10匹程落としてしまいました。4～5日ほどショック状態！現在、稚魚を含めて12匹程。)

今、最も頭が痛いことは、*N. foerschi* フォーシャイの稚魚が150匹程生まれたのですが、ほとんどがメス、オスが2匹しかいない。こんな事であるの？

どうしよう？

2005.3.3



撮影 No.26

アウストラレの楽しみ方 30

Aphyosemion australe アウストラレはアピュオセミアン代表格で比較的手に入れやすく、誰もが一度は飼育したことがあるメダカと思われます。西アフリカでも低地系のメダカでとても飼いやすいです。オレンジの派手な色合い・丈夫・繁殖しやすくと、三拍子そろっていて、初心者の方にもお勧めですが、体型の美しさから結構アウストラレファンは多いようです。最近ちらほらロケ付アウストラレが出てきています。

私もだいぶ以前飼育していた頃があり、殖やしたものをパワーフィルターで75cmの水草水槽に入れていました。鱗もすばめることなくその美しさを披露してくれ、郡泳ネオンテトラ・コリドラスとの混泳でしたが、他の個体には全く興味なく穏和なものです。そのオレンジ色は目立つこと目立つこと、そのうち成魚の雄は大喧嘩となり水槽も広いので動きも速く、壮絶なバトルを繰り返していました。雄を5、6匹以上にすると小競り合い程度ですのでこちらがお勧めです。又はフルサイズ1prでも十分見ごたえがあるメダカと思います。若魚はコモンケースから、成魚はS水槽から大型水槽まで自由に飼育できます。水草もシンプルなダークグリーンにまとめると、こちらメンテナンスが楽です。

ブラウン,チョコレート色タイプは、とても落ちついた色でシックで飽きがきません。これを見ながらティータイム 大人の雰囲気ですね。

熱帯魚感覚で飼育ですので、当然水替えは月1回程度、家庭用浄水器からの水そのまま使用、飼育水の少ない水槽では、バクテリアの湧いた種水の混ざったものが良いと思います。餌は配合飼料 赤虫どちらでもよく、考えられないほど雑な扱いのような気がします。大型水槽とはいえ、他のアフィオセミアンと同じく餌切れには体調を崩しやすいので餌はしっかり与えます。飼育温度は20 ~ 28 度が楽で、夏にも強いですね。ただし夏は水温上昇とともに色々雑多なバクテリアが湧き、水 水草が傷みやすいので餌を控えめにし、水換えを頻繁にします。マイクロソリウムが夏枯れしない水槽を目安にするといいと思います。

繁殖時期は普通秋と春が多く、水温は23 くらいが適温と思われませんがそれ前後でも産卵します。冬の20 以下では繁殖はしません。

繁殖はピート・ウィローモス・モップ・自然繁殖とどんな方法でも出来ますが、気軽なピート使用を記してみます。

コモンケースに半分ピートを敷き、水草を少なめにして、十分抱卵した雌とお気に入り雄のペアを入れます。雌はピートの中に隠れていますが、餌を十分食べれば大丈夫です。1,2週間したら親を取り出して、孵化を待てば結構たくさんのベビーが得られます。

ベビーはピートに湧くインフゾリアで生き抜いてくるので、見つけたらプラケに移しブラインを与えて飼育をします。後はアフィオ稚魚飼育に準じます。また自然繁殖で稚魚が食べられるとよく言いますが、餓死の場合が非常に多いです。

ベビーを見つけたら、掬い出してプラケで育てるのが無難です。性比の偏りはやや雄多めで、卵から半年経てば若魚になります。

オレンジ色を沢山繁殖させると、先祖がえりと言うか少しの数ですがブラウン・チョコレート・真っ赤なスポット・ボディーが薄いブルーなどと、色々な体色の個体が出てきたりします。これらを飼育するとこれまた楽しいことで、アウストラールがこんな色持っていたなんてと思うこともあり、綺麗なアクアリウムストレインとはこんなにして選別するのかなと思った記憶が残っています。

アピオセミアン入門魚ですのでビギナー向き、たくさん殖やして一般ショップさんに放出、あとはばら撒いていただきます。

ショップに来るビギナーの皆さんに飼育していただき、卵目の世界へ是非にと思えます。

またKCJのシンボルマークでもありますので、是非会員の中でキープ、いつでも欲しい人には渡せるような体制ができればいいなと思います。



撮影 No.26

アピオセミアン・アウストラレ・オレンジの飼育・繁殖について

81

去年の10月からメダカの飼育をはじめたメダカ1年生が書く飼育記(失敗記)です。

昨年の秋の豊橋アマゾンでのコンペで購入しました。どちらかという丸っこくて青っぽいのが好きでしたので、長くて赤いメダカにはあまり興味はなかったのですが、オレンジ色が綺麗だったのと、練習用として買ってしまいました(Kさんごめんなさい)。

以前、大阪に住んでいたとき飼っていたので、まあ簡単に飼えるメダカという印象しかなかったのです。

S水槽にウォータースプライトを浮き草として入れました。スポンジフィルターはなし。止水の状態(無茶をする)。アクリルの毛糸がなかったのでピートモスを底に敷いておきました。餌は冷凍赤虫が中心。時々ブラインシュリンプを与えていました。

水換えは最初は2週間ごとにきっちり。でもそのうちにサボってきて1ヶ月くらいの間隔に遠のいていました(性格出てる~)。餌もブラインシュリンプだけの日もありました。

初級魚なので、まあ落としても後で手に入れやすいし、慌てて子を取らなくてもと

思い、水槽はそのままの状態していました。しかし、年が明けても稚魚が見られず2週間くらいで孵化するはずなのに、おかしい、やっぱりモップが必要か？ということで手芸店に行き、アクリル毛糸を1玉買ってきて(店員さんはなんと思ったのでしょうか)モップを作り、水槽へ投入。1週間後数個卵を見つけたので卵をピンセットで毛糸からはがして透明カップに飼育水をいれて観察。でもカビてしまいました。

これはオスに生殖能力がないんじゃないか、新しいオスを入れないといけないとか、卵に光が当たったからだとか、ピンセットにカビが付いていたからとか、色々考えていたら(ずいぶんと身勝手)そのうちに稚魚を発見しました。

原因は水換え、餌不足。

かえて丈夫だという意識が強く、水換えをさぼっていたのと、餌が足りてなかったのだと思います。

稚魚はそのまま水槽内で育ててもよかったのですが、レンゲで掬って透明カップに移つしてブラインシュリンプを与えて飼育しています。

それからは水換えは2週間から3週間のペースを守っています。

水はフィルターを通したものを水槽に貯めてエアレーションしているものを使っています。

水道水は直接は使用していません。大阪の水は少し汚いので直接水槽に入れるのは、ちょっと残酷かなと思って(水換えしないほうがもっと残酷)。

比較的高温にも耐えるメダカですが他のメダカの関係で水温は25 になっています。

水槽にもスポンジフィルターを入れて軽くエアレーションをしています。

非常に丈夫なメダカですが、メダカはメダカ。愛情をもって育てないといけないと大いに反省しました。

2005.8.1



撮影 No.26